

平成29年度地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 業務実績評価 項目別評価(案)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する 目標を達成するためにとるべき措置

1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進

項目別評価① A…4名 B…1名 (自己評価:A)

1-1 基盤研究

- 「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の4つの技術分野を重点化し、「ものづくり要素技術」分野や前年度からの継続テーマと合わせ計94テーマの基盤研究を実施している。
- これまでの研究成果により、中小企業の製品化・事業化の事例が前年度より増加し、共同研究や外部資金導入研究への展開にもつながっている。
- 若手職員向けに研究事業推進研修を新設する等、研究活動の底上げに取り組んでいる。論文発表と口頭発表の件数は前年度より増加しており、評価できる。
- 今後も研究成果が活用され、共同研究や外部資金導入につながるとともに、都内中小企業の新規の事業化に発展することを期待する。

項目別評価② A…2名 B…3名 (自己評価:A)

1-2 共同研究

- 共同研究に基づく製品化・事業化及び特許等の出願や登録の件数は前年度以上の実績を上げている。
- 「中小企業のIoT化支援事業」、「航空機産業への参入支援事業」、「障害者スポーツ研究開発推進事業」を新たに実施した。IoTの活用は様々な分野に波及することから、今後も更に注力されることを期待する。
- 研究成果を把握するために、共同研究先企業への追跡調査を開始しているが、市場性や特許の有効性等の観点でフィードバックし、共同研究の推進につながることを期待する。

項目別評価③ B…5名 (自己評価:B)

1-3 外部資金導入研究・調査

- 外部資金導入研究は提案公募型研究と受託研究を合わせて前年度と同程度の件数を着実に実施した。
- 外部資金獲得のため、研修・指導を強化し、これまで応募していなかった外部資金についても挑戦を図り、提案公募型研究の応募数は前年度比18件増の72件と増加した。
- 今後も、外部資金導入のために積極的に活動し、科学研究費補助金以外にもサポイン事業（戦略的基盤技術高度化支援事業）等へ取組が展開することを期待する。

項目別評価④ S…2名 A…2名 B…1名(自己評価:S)

1-4 ロボット産業活性化事業

- 公募型共同研究開発等を通じて様々な機能を提供するロボットの開発支援や案内ロボットを商業施設等で実証実験を行うとともに、実用化へ向けた事例が多く確認され評価できる。
- 様々な国内展示会に出展して支援しているロボットのPRを図るとともに、新たにロボット利用相談ウェブページを開設して事業化支援に役立てている。
- 世界のロボット動向と社会的ニーズに合った特徴のあるロボット開発やAI、IoTとの連携によるさらなる機能を提供するロボット開発等により中小企業の新規事業につながることを期待する。

項目別評価⑤ A…2名 B…3名 (自己評価：A)

1-5 生活関連産業の支援

- オーダーメイド開発支援の件数は前年度を下回ったものの、感性工学、人間工学的なアプローチにより、特徴ある製品開発につながっている。
- 中小企業では感性工学の適用が難しいため、今後、人間生活工学機器データベースの活用等により製品開発支援を強化することを期待する。

2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援

項目別評価⑥ B…5名 (自己評価：B)

2-1 技術的課題の解決のための支援(技術相談)

- 技術相談の件数は、高水準を維持している。
- 相談者の目標達成度の調査においても高い評価を得ている。
- 技術相談には、中小企業のニーズや技術的課題が含まれており、様々な事業に結び付けていくことが重要である。データベース化した「支援事例カード」の有効活用を図り、ニーズの把握に努めることを期待する。

項目別評価⑦ S…1名 A…4名 (自己評価：S)

2-1 技術的課題の解決のための支援(依頼試験)

- 依頼試験の件数は、前年度よりやや減少しているものの高水準を維持しており、中小企業の技術課題の解決に貢献している。
- 都産技研ならではのブランド試験が、前年度以上に件数や全依頼試験中に占める割合が増えており評価できる。
- 今後も中小企業では導入の難しい機器を整備して、質的、量的な面から充実した支援を期待する。

項目別評価⑧ S…2名 A…3名 (自己評価：S)

2-2 製品開発、品質評価のための支援(機器利用サービスの提供)

- 依頼試験からの移行や実績週報による進捗管理等により、過去最高の機器利用件数となったことは評価できる。
- 城東支所に「デザインスタジオ」、「ものづくりスタジオ」を開設し、新たな機器を導入する等、地域のものづくり支援の強化を図った。
- 今後も、中小企業のニーズを捉えた機器を整備するとともに利便性向上の仕組みを検討する等、質の高い機器利用サービスの提供を期待する。

項目別評価⑨ S…4名 A…1名 (自己評価：S)

2-2 製品開発、品質評価のための支援(3Dものづくりセクター)

- 依頼試験・機器利用の合計実績は前年度比微減だったものの、中期計画目標値を上回る実績を上げている。
- オーダーメイド開発支援は前年度1件から今年度は22件に増加しており、評価できる。
- 3D技術を活用して、多数の独自性の高い製品開発を後押しするとともに、新たにセラミックAM技術における基礎技術を確立するなど、積極的な取り組みは高く評価できる。
- 3Dプリンタにより、製造方法だけでなく、設計方法等のノウハウ等が知的財産の取得につながるなど、ものづくりの概念が進化しており、今後も更なる独自性のある高度な製品開発事例につながることを期待する。

項目別評価⑩ A…4名 B…1名 (自己評価：A)

2-2 製品開発、品質評価のための支援(先端材料開発セクター)

- 依頼試験・機器利用の合計実績は前年度比微減だったものの、中期計画目標の達成に向けて堅調に推移している。
- 研究開発を着実に実施し、特許出願、学協会発表等の成果展開を行っている。

- 地球環境保護に貢献する新素材、印刷技術による表示デバイス等、独自性の高い製品の開発につながっており評価できる。
- 今後も「環境・エネルギー」、「安全・安心」等の分野で経済効果の大きい製品開発や知的財産の有効活用を期待する。

項目別評価⑪ A…5名 (自己評価：S)

2-2 製品開発、品質評価のための支援(複合素材開発セクター)

- 依頼試験・機器利用の合計実績が前年度から大きく増加しており評価できる。
- 成長産業向けの繊維強化複合材料に関する研究開発や伝統産業に先端技術を融合した研究等を実施している。
- 今後も中小企業ニーズの分析を進め、製品化へつながるよう取組の強化を期待する。

項目別評価⑫ A…5名 (自己評価：A)

2-2 製品開発、品質評価のための支援(オーダーメイド開発支援)

- 実施実績が前年度比70件増の520件に増加しており評価できる。
- 材料、精密加工、エレクトロニクス、環境等の様々な技術分野で中小企業ニーズに確実に応えており、アウトカム調査の中のオーダーメイド開発支援の目的達成度の項目においても評価されている。
- 調査の内容を分析し、その結果を事業の改善に生かすことで、利用者の目的達成度が更に高まるような取組を期待する。

項目別評価⑬ B…5名 (自己評価：B)

2-2 製品開発、品質評価のための支援(製品開発支援ラボ等)

- 高い入居率を維持しており、入居者に対する製品化・事業化支援を着実に実施している。

- 機器利用サービスの利用が伸びているが、利用者のニーズを分析して、その他の支援の可能性について検討する等、入居者の製品開発段階に合わせた支援が望まれる。

項目別評価⑭ S…3名 A…2名 (自己評価：S)

2-2 製品開発、品質評価のための支援(実証試験セクター)

- 依頼試験と機器利用の合計実績は過去最高を達成しており、高く評価できる。
- 品質保証推進センターにおいて、信頼性及び品質の確保のために、品質専任担当者の設置や、他部署で実施していた長さ(JCSS)及び照明(JNLA)の品質マニュアル及び品質記録、実績を一元管理するなど、国際規格対応支援の体制を充実したことは評価できる。
- 利用実績件数の増加要因を分析して、更なるサービスの向上に努めることを期待する

項目別評価⑮ S…1名 A…4名 (自己評価：S)

2-3 新事業展開、新分野開拓のための支援(技術経営支援)

- 中小企業振興公社と連携したセミナーの開催、技術相談、実地技術支援を着実に実施している。
- 特許等の出願、知的財産権の実施許諾件数も増加しており、評価できる。
- 特許を取得し、中小企業の活用を促すことで、新規性の高い製品の開発に貢献できるよう、知的財産活用の更なる展開を期待する。

項目別評価⑯ A…5名 (自己評価：A)

2-3 新事業展開、新分野開拓のための支援(技術審査)

- 受託収益の金額は前年度を下回るものの、技術審査件数は前年度を上回る実績をあげており、評価できる。

- 技術審査の精度向上のため、学会・講習会・展示会等にて中小企業が活用可能な最新事例を調査し、技術審査の質的向上を図っている。
- 今後も追跡調査を実施するなど、貢献度の定量的な把握を継続することを期待する。

項目別評価⑱ A…4名 B…1名 (自己評価：A)

2-4 中小企業の海外展開を支える技術支援

- MTEPの相談実績は過去最高を達成している。
- 中小企業では対応が困難な国際規格の情報提供や国際規格に対応する試験を着実に実施するとともに、新たに航空機産業支援室の開設や海外展示会への出展を支援しており評価できる。
- バンコク支所については、顕著な成果事例が生まれることを期待する。

3 多様な主体による連携の支援

項目別評価⑲ A…4名 B…1名 (自己評価：A)

3-1 産学公金連携による支援

- 「東京イノベーション発信交流会 2018」において、金融機関等と連携しビジネスマッチング会を主催している。成約見込件数が前年度の11社32件から今年度は26社72件に増加しており評価できる。
- 金融機関との連携も進んでおり、ネットワークも構築されつつある。また、異業種交流活動による支援も着実に実施している。

項目別評価⑳ B…5名 (自己評価：B)

3-2 行政及び他の支援機関との連携による支援

- 新たに東京農工大学と連携協定を締結し、連携協定締結機関数は増加してい

- る。
- 都産技研利用に対する自治体の助成事業実施機関に新たに港区が追加され、中小企業の利用促進を着実に実施している。
- 今後も連携による具体的な成果を期待する。

4 東京の産業を支える産業人材の育成

項目別評価㉑ A…1名 B…4名 (自己評価：B)

4-1 技術者の育成、4-2 関係機関との連携による人材育成、

4-3 海外展開に必要なグローバル人材の育成

- 技術セミナー、講習会は開催件数、受講者数ともに前年度と同等の実績であり、着実に実施されている。
- グローバル人材の育成については、金融機関と連携して新たにTV会議を活用して中国で日系企業向け遠隔セミナーを実施した。
- 人手不足や経済のグローバル化等の中小企業の課題に対応するために、最新の技術動向や企業のニーズを踏まえて、セミナー等の質的向上や利便性向上を図り、ニーズに合った技術者やグローバル人材の育成に期待する。

5 情報発信・情報提供の推進

項目別評価㉒ A…3名 B…2名 (自己評価：A)

5-1 情報発信、5-2 情報提供

- 展示会の出展やクロスミーティング(研究成果発表会)、施設公開等を行い、情報発信を着実に実施している。
- 利用者に効果的に情報を提供するために、新たな取組としてウェブサイト動画に掲載し、事業PRを行ったことは評価できる。
- イノベスタ(本部施設公開)、クロスミーティングの実施体制を変更し、業務委託費を前年度比約12百万円削減した。
- イベント内容と経費削減の内訳を分析し、効果的なイベントになるよう今後

の事業運営に反映することを期待する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織体制及び運営、2 業務運営の効率化と経費節減

項目別評価 ②② B…5名 (自己評価：B)

- 中小企業のIoT化支援事業を実施するために、「IoT開発セクター」を新設する等、効率的な執行体制を確保している。
- 業務時間分析の結果、職員の研究開発時間の割合が31.5%と前年度比2.2%増加しており、研究員の研究時間を確保するための方策にも効果が見られる。

III 財務内容の改善に関する事項

(1 資産の適正な管理運用、2 剰余金の適正な活用)

IV 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画

V 短期借入金の限度額

VI 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

VII 剰余金の使途(1 剰余金の使途、2 積立金の使途)

VIII その他業務運営に関する重要事項(1 施設・設備の整備と活用)

項目別評価 ②③ B…5名 (自己評価：B)

- 目的積立金を取り崩し、城東支所リニューアルに伴う機器を整備する等、資産の運営管理を適正に行っている。
- 平成28年度に引き続き設備機器の校正・保守の経費を抑制している。

VIII その他業務運営に関する重要事項

(2 危機管理対策の推進、3 社会的責任)

項目別評価 ②④ B…5名 (自己評価：B)

- 情報セキュリティ研修、関係法令等に基づく安全点検、健康管理講習会等を適正に実施している。
- 情報セキュリティの問題は益々深刻となっており、情報漏洩防止の取組強化と事故が生じた場合の早急な対応を期待する。